

学校だより

令和8(2026)年度7月号
宝塚市立御殿山中学校

「生きたいと願った証」

校長 辻本 恭隆

いつの頃からか、6月23日を迎えると沖縄のことを思うようになりました。

沖縄県にとってこの日は「慰霊の日」という祈りの日です。毎年、糸満市にある平和祈念公園では、沖縄全戦没者追悼式が6月23日に行われます(修学旅行で皆さんが芝生の公園を横切った、あの場所です)。

平和祈念公園の中には、戦没者の名前が刻まれた「平和の礎」という石碑があり、波の形にたくさん並んでいます。そこには24万2,659名もの名前が刻まれており、敵も味方も、国籍も関係なく、沖縄戦やそれに関連して亡くなられた方々の名前が同じ場所に刻まれています。このような慰霊碑は世界でも珍しく、「世界一平和を願う場所」とも言われています。私の祖父も礎に刻名されており、あの公園のある摩文仁の丘一帯のどこかで眠っているはずです。81年前、先の大戦で住民の4人に1人が亡くなったとされる沖縄県では、この日は特別な一日なのです。



追悼式では、「平和の詩」の朗読が行われ、児童生徒が平和への思いを込めて作った詩が毎年披露されます。今年、「生きたいと願った証」と題した詩を朗読したのは、豊見城市立豊崎中学校2年の亀谷琉奈さんです。この作品は、第36回児童生徒の平和メッセージ中学校詩の部門で最優秀賞に選ばれました。

平和の詩の応募総数は846件。その中から選ばれたこの詩には、戦争の悲惨さと平和の尊さについて深く考えさせられるメッセージが込められています。

この詩のもととなっているのは亀谷さんが5歳の頃、曾祖母(ひいおばあちゃん)から聞いた戦争の話でした。「この傷どうしたの?」と尋ねると曾祖母は自身の戦争体験を語り始めたそうです。右太ももには、「戦争を生き抜いた証」ともいえる傷痕が残っていました。

曾祖母は戦時中、石垣島からいろいろな島を経由して台湾へ疎開しました。灰色の空の下、空襲から逃げ惑う日々。道には倒れたまま動かない人々が横たわっていたそうです。

「生きたい、死にたくない」と必死に走り続ける中、恐怖と不安で我を失い、気が付くと右手に握った石で自らの右足を何度も引っかいていたそうです。

そのような極限状態の中でも、生きることを諦めず命をつないだ曾祖母。しかし、亀谷さんが戦争の話を聞いたのは、その一度きりでした。いつもは明るい笑顔を見せる曾祖母が、その時は涙を流していました。その姿が亀谷さんの心に深く刻まれています。曾祖母はその数年後、95歳で亡くなりました。

亀谷さんは、「曾祖母が命をつないでくれたからこそ、今の私がいる」と語っています。そして、「この詩が平和について考えるきっかけになってほしい」という願いを込めて作品を書き上げました。

私たちが当たり前のように過ごしている今日という日は、多くの人々が「生きたい」と願い、命をつないできた先にあります。私たちは戦争を体験していません。しかし、戦争を生き抜いた方々の思いや願いに耳を傾け、それを次の世代へ伝えていくことはできます。

今年の「平和の詩」に込められた願いを受け止めながら、平和とは何か、自分にできることは何かを、一人ひとりが考える機会にしてほしいと思います。そして、その思いを未来へつないでいてほしいと願っています。

※亀谷さんの朗読は YouTube 等で観ることができます。是非、式典での力強く、透き通った亀谷さんの声で聴いてみてください（裏面に詩を掲載しています）。

7月の学校行事					17:45下校	
1	水	専門委員会	17	金	終業式 10:25下校	
2	木	⑥なし 職員会議 ノー部活デー 14:45下校	18	土	空調設備改修工事開始 吹奏楽コンクール西阪神大会 宝塚小盆おどり大会【雨天中止】 夏季休業日	
3	金					
4	土	中体連夏季大会	19	日	海の日	
5	日	中体連夏季大会	20	月		
6	月	ノー部活デー	21	火		
7	火	⑥全校集会	22	水		
8	水	⑤⑥2年トライやる事前訪問	23	木		
9	木	期末懇談会 ③④2年学年行事	24	金		
10	金	期末懇談会 教育実習最終日	25	土	吹奏楽コンクール西阪神大会	
11	土	中体連夏季大会	26	日		
12	日	中体連夏季大会（予備日）	27	月		
13	月	期末懇談会	28	火		
14	火	期末懇談会 ③④2年 SC 講話	29	水		
15	水	期末懇談会 ④1年デートDV防止授業 給食最終日	30	木		
16	木	大掃除 給食なし 11:15下校	31	金		



・学校閉鎖日（8/12）～（16） ・始業式（8/31） ・3年実力テスト1,2年課題テスト（9/1・2）
・給食開始（9/2） ・専門委員会（9/3） ・2年「トライやる・ウィーク」（9/14～18）

夏季休業中における空調設備新調工事のお知らせ

夏季休業中に普通教室・特別教室の空調設備（エアコン）が新調されます。7月18日（土）から2学期始業式まで、普通教室・特別教室のエアコンは使えなくなりますので、ご注意ください。今回、職員室、事務室、保健室は新調の対象外で、体育館は冬に新設されたため、エアコンは使えます。木工室、金工室も 8/11 まではエアコンは使えます。暑くなる時期に恐れ入りますが、ご理解ご協力のほどお願いいたします。

夏休み中の学校で活動する際は、多めのお茶・水の持参など、熱中症対策の方もよろしくお願いいたします。



スマートフォンやSNSの利用について

スマートフォンや SNS に関するトラブルが増加しています。便利な一方で、誹謗中傷や個人情報の流出、友人同士のトラブルなどにつながる可能性があります。学校でも情報モラル教育を進めていますが、夏休みを前にご家庭でも、お子様とスマートフォンや SNS の利用について話し合う機会をお持ちください。「利用時間や利用方法」「投稿内容」「知らない人とやり取りしない」など、ご家庭でルールを確認し、安心・安全に利用できるよう見守りをお願いいたします。

「生きたいと願った証」 豊見城市立豊崎中学校2年 亀谷琉奈

あの日の沖縄には
青い海も
優しい風もなかった
空は黒く
地面は揺れ
人々の叫び声が絶えなかった
爆撃の音が
心まで壊していく

まだ若かった曾祖母は
小さな体で必死に走った
血だらけの道を
倒れた人たちの横を
もう動かない人を見ながら
涙を流す暇もなく
ただ生きるために
そして
愛する夫の命を案じながら
「お願い 生きていて」
その想いだけを胸に
足がもつれても
呼吸が苦しくても
転びそうになっても
前へ前へと走った
しかし
その願いは
もう二度と届かなかった

その時のことを話す曾祖母の声は
今でもとても優しい
でも 私は知っている
その優しい声の奥に
今も消えない悲しみがあることを
細い足
しわしわの手
小さな背中
長い年月を生きてきたその姿を見るたび
私は戦争の重さを感じる

そして
曾祖母の右足には
今も傷が残っている
それは
戦時中 自分で引っ掻いた傷
灰色の空の下
爆撃の音が鳴り響く
恐怖と不安でいっぱいになり
右手に握った石で
自分の右足を何度も何度も引っ掻く
気づけば手も足も血だらけだった

私が真実を知った時
胸が締めつけられた
どれほど怖かっただろう
どれほど苦しかっただろう
生きたい
死にたくない
その想いだけで
曾祖母は必死に生き延びた

戦争は人を傷つける
体だけじゃない
心まで壊してしまう
家族と笑う時間
友達と過ごす日々
「また明日ね」と言える幸せ
そんな当たり前を
全て奪ってしまう
でもそれは
当たり前なんかじゃない
血と涙の中を生き抜いた人たちが
命を繋いでくれたから
今の私たちがいる
もし曾祖母が
あの日 走っていなかったら
もし
あの日 命を落としていたら
私はここにいなかった

曾祖母の右足の傷は
ただの傷じゃない
「生きたい」と強く願った証
「戦争は二度としてはいけない」
という叫び
私はその想いを
これから先も伝えていく
もう誰にも
血だらけの道を
走ってほしくないから
もう誰にも
愛する人の命が奪われることに
怯えてほしくないから
もう二度と
沖縄の空を戦争で
染めてはいけないから

平和は当たり前じゃない
たくさんの人の涙と苦しみと
「生きたい」という願いの上にある
だから私は忘れない
沖縄戦で苦しんだ人たちを
愛する人を守ろうとした想いを
泣きながら生き抜いた人たちを
そして
曾祖母の右足の傷を
「生きたい」と願った証の傷を
平和な未来へと繋いでいくために